

購読者に電子メールで送信したものをそのまま掲載しています。等幅フォントでお読みください。

< C U E > 利用教育委員会通信 第 61 号 (17 卷 1 号) 2006. 5. 18 発行

■■■■ ■ ■■■■ 利 用 教 育 委 員 会 通 信
■ ■ ■ ■ ■ 日 本 図 書 館 協 会 図 書 館 利 用 教 育 委 員 会
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

- ・ 「< C U E > 利用教育委員会通信」は、日本図書館協会図書館利用教育委員会の最新のニュースをお伝えするメールマガジンです。
 - ・ < C U E > とは、Committee of User Education の頭文字です。英語の「cue」はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
 - ・ 利用教育関連の情報をお寄せください。
 - ・ メールマガジンに関するご意見、ご要望はこちらへ。cue@jla.or.jp
-
-

□ 目次

- (1) 第 7 回図書館利用教育実践セミナーのお知らせ
 - (2) 第 6 回図書館利用教育実践セミナーの報告
 - (3) 温泉情報リテラシー
 - (4) 図書館利用教育文献一覧 (2005 年 10 月～2006 年 5 月発行分)
 - (5) 編集後記
 - (6) 利用教育委員会委員
-
-

- (1) 金曜夜は、指導サービス専門家に变身！！
第 7 回図書館利用教育実践セミナーのお知らせ

● 2006 年 6 月 23 日 (金) 19:00～21:00

図書館利用教育の自己点検・評価の方法
—大学図書館の新生オリエンテーションを事例に—

● 講師：石川敬史
(図書館利用教育委員会委員，工学院大学図書館)

ことはありません。

(2) 第6回図書館利用教育実践セミナーの報告

情報検索指導法の研修に高まるニーズ

—満員札止め、熱気と満足、もっと関西で開催を！—

当図書館利用教育委員会は、3月18日（土）、キャンパスプラザ京都において、第6回図書館利用教育実践セミナーを開催しました。

今回は「情報検索指導における良い例・悪い例《初級編》～素材を集め問題を作り要点を説明する方法～」と題し、仁上幸治氏（早稲田大学図書館）が第5回のセミナー（※1）の内容を大幅改訂した講演を行いました。

講演では、図書館による講習会や授業の中で、情報検索に関する基礎知識を利用者に理解してもらうための例題の実例を紹介し、良い点・悪い点をビジュアルに解説しながら13の提案（※2）を行い、例題は聞く人の気持ちで作ることが大切であると指摘しました。具体的には、(1) 専門知識の噛み砕き力、(2) わかりやすい説明の技術、(3) 文字と画像の表現力、(4) ビジュアル表現のセンス、(5) 初心者の内面への想像力などが求められると指摘しました。さらに今後の展望として、ホームページやメーリングリストを活用した、例題モニターネットワークと例題バンクの立ち上げを提案しました。

なお質疑応答では、ホームページやデータベースの評価基準に関する質問や、また早稲田大学における利用教育の実例、そしてその担当者の育成問題などが質疑されました。

このセミナーには、大学を中心に各館種の図書館員や教員など154名が参加し、会場は定員を上回る満員となりました。なお従来、利用教育は専任職員の担当分野であったことを考えると、この講習会の参加者に非正規職員が図書館員の3分の1を占めたことは、大変注目される点です。

アンケートでは、セミナーに参加して「大変良かった」という回答が全体の79%、「良かった」が20%で、良いという評価が合計98%に上りました。講演の感想としては「目からウロコ」「本当に来てよかった」「これほど充実しているとは!」「とても楽しく密度が濃い」「最近参加したセミナーでもっとも有用な内容」「(視覚)の大切さを実感」「テンポが良くて楽しい」「知りたいことを次々に答えてもらった」

「中・上級編もぜひ」「もっと関西で開催を」などの意見がよせられました。(K. H)

- ※1 「(1)第5回ライダーナイトセミナー報告」『<CUE>利用教育委員会通信』58, 2005.7. (URL 最終確認: 2006年5月13日) <http://www.jla.or.jp/cue/mm-58.html>
- ※2 「第5回ライダーナイトセミナー開催: 情報検索指導法の改善に館種を越えて高まる関心」『図書館雑誌』99(7), 2005.7, pp. 422-423.

(3) 温泉情報リテラシー

温泉情報の収集と活用—五感情報リテラシーの典型—

戸田光昭 (駿河台大学名誉教授)

2005年の年末に、機会があって、急に高知へ2泊3日の旅行をした。まず、最初に頭に浮かんだのは「馬路村」であった。「四万十川源流」というテーマもあったが、年末の2泊3日では無理だろうと考え、馬路村に決めた。

しかし、馬路村には宿泊場所があるか。高知空港から直接行けるのか。その移動手段は何か。インターネットでは、細かな部分が分からない。時間も足りなかったので、高知市内ホテル2泊という予約をただけで、夕方の東京・羽田空港から夕日に映える富士山を機窓の右手に見ながら、高知へ向かった。

高知市のホテルには19時頃に着いた。すぐにそのホテルの宿泊料金とセットになっている高知市郊外の温泉へタクシーで行き、入浴後、夕食をとり、またタクシーで市内へ戻って、その夜は、静かにホテルで泊まった。翌日は、本命の馬路村である。馬路村に決めた理由は「ゆず酢」もあるが、温泉が最大の理由であった。

朝、市内電車で高知駅へ向かう。駅前の旅行案内所で詳しく調べてもらった。有名な馬路村であるが、観光客の問い合わせは多くないらしい。ベテランの男性所員は、かなり時間をかけて、自分自身もまだ行ったことのないという馬路村への交通手段を調べてくれた。結局、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線に乗り、安芸駅で馬路村行きのバスに乗り換えるのが最適であるということになった。

馬路村には午後3時前によく到着。帰りの終バスは5時なので、2時間ほどしかない。村営温泉へ急ぎ、入浴する。十数人で満員になりそうな小さな湯船で、大々的に宣伝できない理由が分かったような気がした。しかし、これは本当に良い温泉であった。無色透明なのであるが、何とも肌に優しい泉質であった。貸切り同然で乗ったバスの運転手さんの言葉によれば、馬路温泉のある安田川近辺には、同様な泉質の温泉が幾つかあるという。地元の人しか知らない良質で小さな温泉が土佐にもあったのだ。

温泉情報を集めるだけであれば、ウェブ情報も含めて、これを収集することは、それほど難しくない。特に最近では、インターネットからのウェブ情報源は、検索エンジンの高度化に伴って、ほとんどの情報をインターネット経由で入手することが可能になった。適切な情報を得るには、情報源に関する基礎的な知識、検索手法の基本技法、関係専門分野に関する理解と知識など、その基本となることからの上立った能力が要求されることは当然である。

温泉情報リテラシーは、人間の五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）から考えると、その全ての感覚を使って情報を集めないと、温泉情報には到達しない。これが他の分野と大きく異なる点であり、難しい点でもある。

温泉はまず視覚、即ち見た目が重要である。「白骨温泉」に於ける他の温泉源からの白濁湯混入事件は、その重要性を浮き上がらせたということが出来る。聴覚はあまり関連がないように思われるかも知れないが、温泉場には、音響効果が大きな役割を果たしている。温泉風呂そのものと、風呂場の環境である。さらに、嗅覚は、それぞれの温泉の特色を大きく示すものである。そして、温泉の成分を明らかにするものでもある。味覚は、飲む温泉療法も古くから存在しているように、温泉にとって重要な要素で、嗅覚と並ぶものである。触角は、入浴に際して、人肌に感じる場所であろう。泉質、泉度、泉温、泉感など、本来の温泉に求められる要素といえるかも知れない。

以上のような五感の全てを取り入れた情報リテラシーは、まだ完成していない。今のところは、現地へ行ってみなければ、温泉情報を総合的に入手することは出来ない。個々の情報収集は、単独ならば可能であろうが、総合的な収集・活用手法は今後の課題であると言わざるを得ない。しかし、これが理想的な情報リテラシーのモデルであることも確かである。その点では、温泉情報リテラシーは、総合五感情報活用の最先端を行くものであると言えよう。

(トダ ミツアキ)

(4) 図書館利用教育文献一覧 (2005年10月～2006年5月発行分)

- ・対象誌は次の通りです。

『医学図書館』 『学校図書館』 『情報管理』 『大学図書館研究』
『大学時報』 『図書館界』 『図書館雑誌』 『薬学図書館』
『ほすびたるらいぶらりあん』

- ・この文献一覧の情報は、当委員会委員が現物により収集したものです。内容の誤りや採録されていない文献にお気づきの方は、ぜひご連絡ください。
- ・収録対象期間には多少ずれがあります。
- ・上記の雑誌以外でも必要に応じて採録しています。
- ・一部の文献には解題を付し、担当者の署名を末尾に記しました（今回はなし）。
- ・書誌事項の先頭に館種を【大学図書館】【公共図書館】等で示し、館種別にリストアップしました。
- ・◆は利用教育関連文献、◇は少し広く採録した参考文献です（今回は◇はなし）。

【大学図書館】

- ◆市川美智子「図書館パスファインダー作成報告とその可能性」『医学図書館』53(1), 2006.3, pp.55-59.
- ◆伊藤幸江「人文・社会科学分野における主題別情報探索法指導の検討：事例からの考察」『図書館界』57(4), 2005.11, pp.222-239.
- ◆小嶋智美「医療分野における図書館パスファインダーの可能性を探る」（特集2：第22回医学情報サービス研究大会）『薬学図書館』51(1), 2006.1, pp.53-58.
- ◆慈道佐代子「情報リテラシー教育の理論的枠組みと大学図書館における実践についての考察」『大学図書館研究』75, 2005.12, pp.44-53.
- ◆塚原康博「教育・学習を強力に支援する大学図書館」『大学時報』305, 2005.11, pp.90-93.

【公共図書館】

- ◆日置将之「北から南から ヤングアダルトを図書館に呼び込め!! 若き司書たちのチャレンジ—「司書になるには?セミナー+図書館活用術」の実施について」『図書館雑誌』99(7), 2005.7, pp.460-462.

【学校図書館】

- ◆柴田笑子「キラリ！司書教諭(20) 情報リテラシーを育てる利用指導」
『学校図書館』661, 2005. 11, pp. 77-79.

【専門図書館】

- ◆高橋奈津子（ほか著）「研修医への図書室サービス；聖隷浜松病院の事例として」『ほすびたるらいぶらりあん』31(3), 2006. 3, pp. 28-32.

【共通】

- ◆常世田良「視点：図書館と情報リテラシー」『情報管理』48(12),
2006. 3, pp. 835-837.

(5) 編集後記

電子メール版になって8号目の「通信」をお届けします。今号では、新連載の「温泉情報リテラシー」のほか、第7回図書館利用教育実践セミナーのお知らせを掲載しました。このセミナーに関心のある方はぜひご参加ください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。（春田）

(6) 利用教育委員会委員

(委員長)

毛利 和弘 : 亜細亜大学学術情報課

(委員)

青木 玲子 : 埼玉県男女共同参画推進センター

赤瀬 美穂 : 京都産業大学図書館

有吉 末充 : 京都学園大学人間文化学部メディア文化学科

石川 敬史 : 工学院大学図書館

木下 みゆき : 大阪府立女性総合センター情報ライブラリー

野末 俊比古 : 青山学院大学文学部

春田 和男 : 筑波大学大学院博士課程

和田 佳代子 : 昭和大学歯科病院図書室

久保木いづみ : 日本図書館協会事務局

・ バックナンバー

<http://www.jla.or.jp/cue/>

・ 配信登録・変更・解除・お問い合わせ

cue@jla.or.jp

※本紙は Yahoo! Groups を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本紙の内容と Yahoo! とは関係がありません。

[戻る](#)